

三八〇九番

商返しあきかへをすとの御法みのり あらばこそ 我あが下衣したごろも

返し賜かへたまはめ

右みぎ、伝つたへて云いはく、時ときに幸うつくしびられし娘子をとめあ

り。寵うつくしび薄うすれたる後のちに、寄物かたみを還かへし賜たまふ。

ここに娘子をとめ怨恨うらみて、聊いさかにこの歌うたを作りつく

て献たてま上つる、といふ。

三八一〇番

味飯うまいひを 水みづに醸かみなし 我あが待まちし かひはさね

なし 直ただにしあらねば

右みぎ、伝つたへて云いはく、昔むかし娘子をとめあり、その夫つまを

相別あひわかれて、望うらみ恋こひて年としを経へたり。その時とき、

夫君つま更さらに他あたし妻めを取り、正身ただみは来こずて、

ただ裘物つとのみを贈おくる。これに困よりて、

娘子をとめはこの恨うらむる歌うたを作りつくて、これに還かへし

酬こたふ、といふ。